



学校だより

たくま

白鷹町立荒砥小学校

令和元年 8月26日

2学期は“じりっ” “誰かの役に立つ”

校長 菅原 透



暑い夏でした。プール開放も午後中止になる機会が多く、子ども達にはきつい日々が続いたかも…。でも20日の始業式で元気な姿を見ることができ、主役達の笑顔に嬉しくなりました。

さて、今年は「元気」と「本気」が合言葉。元気に登校できる、あいさつできる、本気になって努力できる、自分達で取り組める、そんな姿を求めています。

2学期に向けて、それを具現する2つのキーワードを提示しました。

一つ目は「じりっ」です。

“元気”になるには「自立」が大切。登校できる心身を育む「早寝・早起き・朝ごはん」に自ら向かい、お家の方とともに、健康な生活習慣を身につけられたらいいと考えます。あいさつにも「自立」が肝要。白鷹スタンダードには「あいさつ上手で、笑顔かがやく白鷹人になろう」と掲げられ「いつでも・どこでも・自分から・明るく・笑顔で・はっきりと」とあります。学校・家庭・地域ですてきなあいさつを日常化させていきたいと思えます。次に“本気”になるために「自律」を心に留めたいものです。子ども達の知徳・体の力をしっかり身につけられるよう学習を充実させます。学校では、発達

段階に即したわかる楽しい授業、そして、家庭では、“学年×10分”の学習に取り組みます。また、生活を豊かにするのも「自律」から。自分達で考えたこと、決めたことにしっかり取り組み、自浄できる集団を形成し、楽しい学校生活を高学年中心に創ってまいります。

二つ目は「誰かの役に立つ」です。

自分だけでなく、周りに心を配りながら生活することで、みんなが大好きな温かい学校ができると考えます。その方法や手段はいろいろあります。自分ができること、誰かを援助すること、誰かを応援すること…。それを意識することで、優しい心が育まれます。自己犠牲ということではなく、誰かの役に立てることを自分の誇りに思えるような、そんな子どもを育みたい…。間違いなく、自尊感情が高まっていきます。

行事が目白押しの2学期。節目ごとに確かな育ちを実感できる毎日にしてまいります。皆様からの力強いご支援をよろしくお願いいたします。

…エピソード…1年生がしりとりをしている時、「じ」で始まる言葉になったそうです。その答えは何と「じりっ」でした。早速、子ども達の心に響いたことが何とも嬉しく、幸先の良いスタートになりました。